

PROLOGUE

木二中 学校だより No.18 令和6年9月19日
校長 山元 竜二

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233

E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



学校では教えてくれないマナーについて

3年生の皆さん、修学旅行お疲れ様でした。9月とは思えない残暑厳しい奈良・京都でしたが、皆さんにとって生涯にわたる思い出として心に刻まれたのではないかと思います。皆さんは、修学旅行を通じて何を学びましたか？歴史？文化？それとも社会生活？

帰りのJR京都駅で私が気になったことがありましたので、写真とともに紹介したいと思います。

京都班別自由行動の日、私も中嶋先生、阿部先生、佐藤先生が乗車するタクシーに便乗し市内を巡回、ドライバーさんといろいろお話をしましたが、ドライバーさんによると春より9月、10月の修学旅行が圧倒的に多かったとのこと。君津市の周南中学校や、お隣の木更津第三中学校もまったく同じ日程での修学旅行でした。行きも帰りも関東近県の中学校と思われる多くの学生団体に遭遇しましたね。

下の写真は、帰りのJR京都駅構内、改札を通る前の様子です。左が関東方面のどこかの中学校(不明)。右



が木更津第二中学校。どちらも新幹線乗車前の時間調整、整然と並んで待機していましたが…。

皆さんはこの2枚の写真を見比べて何か気がつくことはありませんか？すぐに気がつく生徒が多くいるとしたら、木更津第二中学校はもっともっといい学校になるはず。

本校生徒も最初からできていたわけではありません。「ごめんな、ちょっとここに並ぶのはやめようか。みんな右に寄ってくれる？」の一言だけでほとんどの生徒がその理由を察知、す

ぐに行動に移しました。一方、左の写真。先生方が気づくわけでもなし、注意するわけでもなし、平然と荷物が点字ブロックの上に。列の後方は、点字ブロックを遮るように並んでいました。目の不自由な方が今周囲にいるわけではないし、もし目の不自由な方が来たらその時にあげればいい、という問題ではないと私は考えます。

何のための修学旅行なのか。前号でも触れたように、修学旅行には修学旅行ならではの目的こそありますが、決してそれだけではない。将来、社会の一員として、社会の秩序を保つ立派な大人になるために必要なスキルを身につけること、決して教室では学ぶことができない社会のマナーを身につけることも、もしかしたら本来の目的以上に大切なことではないかと考えます。

意外にも、社会のマナーやルールって法律や条令のように明文化されていないことが多いからこそ、それが身についている人、そうでない人との間に人間性の差、人間力の差が現れるのではないのでしょうか。

日本もまだまだ捨てたものではない！

「捨てたものではない」=「価値がある」「いいところもある」という意味の比喩：「いろいろネガティブなことも言われるけど、まだまだいいところもある」の意

修学旅行中、本校生徒がある場所に財布を置き忘れてしまうハプニングがありました。先生方と添乗員さんで対応を協議、すぐに問い合わせるとともに、該当生徒と職員1名が忘れた場所に電車で戻りました。

「もう随分と時間が経過しちゃってるね。出てこないことも覚悟しなければ…」

「いや、出てきたとしても中身はない可能性が高いかもしれないね。」と財布がもう出てこないことを前提にその後の対応を協議していたところ、現場に向かった職員から連絡が入ります。

「財布は既に交番に届けられており、中身も全部ありました。本人確認ができればすぐに手渡してくれるとのこと。」

「置き忘れた財布は出てこない」とネガティブに考えなければならないこの世知辛い世の中にあって、何事もなく財布が交番に届けられているなんて日本もまだまだ捨てたものではない、いや、日本食のおいしさや街の美しさ、アニメも人気なんだろうけど、紛失した財布が無事に戻ってくるという日本社会の秩序、日本文化、日本人の国民性(人間性)もその(日本の人気)一つの要因になっていると感じずにはいられないのは私だけではないと思います。(外国人が多かったので拾った方が日本人であるとは限りませんが…)

COOL JAPAN ～クールジャパン～

内閣府の知的財産戦略本部によって令和元年9月に提唱されたクールジャパン戦略。その後新型コロナウイルス感染症が大きな影を落としたとはいえ、インバウンドの国内消費は右肩上がり、まさに内閣府が狙う「世界の共感を得ることを通じ、日本のブランド力を高めるとともに、日本への愛情を有する外国人(日本ファン)を増やすことで日本のソフトパワーを強化する。」ということをもって感じた今回の修学旅行。3年生の皆さんも班別自由行動で外国人の多さに驚かされたのではないのでしょうか。皆さんが宿泊した「都ホテル」、実は宿泊客のほぼ9割が外国人でした。

修学旅行2日目の夕方、何気なくホテルのロビーを眺めているとチェックインする人々はすべて外国人。英語はもちろんイタリア語、スペイン語、フランス語、中国語、韓国語、その他、世界各国の言語がロビーに飛び交っていました。

私: You're wearing nice T-shirt. What country are you from? Do you speak English?

外国人: Oh, thank you. I'm from Italy. I speak English a little. But....

富士山のTシャツを着ていた外国人に話しかけたところ、イタリアから日本に来たこと、日本は初めてで、10日間のバカンス中であること、この日は奈良・大阪を訪れた後、明日には金沢をまわって東京に向かうということなど、たくさん話してくれました。何かアドバイスはないかと尋ねられたので、大阪に行ったらぜひタコ焼きとお好み焼きを食べてみて、と伝えました。別れ際に、

外国人: (私のアドバイス後) Ok, I'll try. Thank you.

私: How do you find Japan?

という私の問いかけに

外国人: Good, good, very very good. Japan, Japanese very good!

と片言の英語で連呼していました。

班別自由行動のとき、外国人観光客とお話した班はあったのかな…。「食」、「アニメ」、「ポップカルチャー」、「富士山とローソン」だけじゃない、日本人が古来から持つ人間性の「温かさ」を伝えられたらいいなと思いました。

前号でお伝えした「大政奉還」が行われたと言われる二条城にもちゃんと行きましたよ。中嶋先生はあまり興味がなかったようですが…。

社会秩序を維持する人間になっているかどうか

さて、第2学期がスタートして三週間が過ぎようとしています。1年生は校外学習、2年生は職場体験、3年生は修学旅行を終え、一段落といったところでしょうか。

学校での生活はもちろん、校外での過ごし方、地域、自宅での生活等について振り返ってみてください。徒歩、自転車に関係なく登下校のあり方、地域の公園での過ごし方、その他いろいろ。

残念ではありますが、2学期についても1学期同様、自転車での登下校のあり方についてお叱りの連絡が入っています。また、公園での過ごし方についてもお叱りの連絡が入っています。「中学生が公園を利用した後にゴミが山のように残され、散らかっている。」とのこと。それでいいのだろうか…。

自分たちだけが楽しければそれでいい、次に誰が利用しようが自分たちの知ったことではない、スマホ片手に自転車に乗っていても事故さえ起こさなければいい、仮に事故に遭ったとしても車が悪い、ぶつかってきた人が悪い…は、世の中では一切通用しないということを改めて考え直してほしい。愚かな行為は必ず周り巡って自分自身に返ってくる。それだけは忘れないでほしいと思います。